

4 避難の心得

避難時の注意事項

1 正確な情報収集と早めの行動。

ラジオ、テレビなどで情報を確認し、危険と感じたら早めに行動しましょう。



3 動きやすい服装で、荷物は最小限にしよう。

非常時の持ち出し品はリュックに入れて行動し、両手が使えるようにしましょう。



5 危険なところは避けよう。

塀際、狭い道、川の近くは避けましょう。垂れ下がった電線には触れないように気をつけましょう。



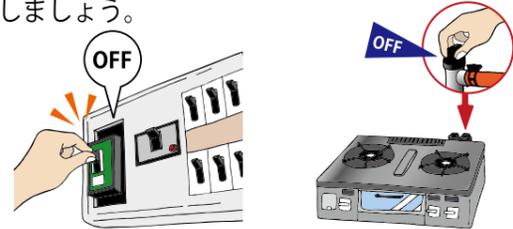
7 アンダーパスや潜水橋の通行は避けよう。

線路などをくぐる道路「アンダーパス」は周りと比べて低くなっており、水に浸かりやすいので通らないようにしましょう。また、洪水時に水没する「潜水橋」も通らないようにしましょう。大雨時に水がたまりやすいアンダーパスや水没する潜水橋は防災マップに記載しています。



2 避難する前に確認しよう。

避難する前に、ブレーカーを切り、ガスの元栓をしっかり閉めましょう。また、親戚・知人などに避難することを連絡しましょう。



4 車は使わず、歩いて避難。

あらかじめ決めておいたよく知っている避難経路を通りましょう。



6 車での避難は避けよう。

避難時に車が浸かってしまうと車のエンジンが停止したり、ドアが開かなくなることがありますので、車での避難は危険です。



大雨・洪水時の注意事項

浸水が始まる前に避難することが重要です。万が一、浸水が始まり避難が必要となった場合は、以下のことに注意しましょう。

1 足元に注意。

水中のマンホールや溝に注意し、長い棒を杖代わりにして確認しましょう。道路はできるだけ真ん中を歩きましょう。



2 歩ける水の深さは膝まで。

歩ける深さの目安は、膝くらいまで（水深30～50cm）です。



3 水深が浅くても危険。

流れが速くなるので水深が浅くても危険です。



4 集団ではぐれないように避難。

はぐれないようにお互いの体をロープで繋いで避難しましょう。



5 逃げ遅れたら高いところに避難。

浸水が始まり、避難することに危険を感じた場合は、自宅の2階や高い所へ移動し、救助を待ちましょう。ただし、自宅2階の安全性について把握しておく必要があります。



地下空間での注意事項

大雨・洪水時の地下は危険です。早めの避難に心がけましょう。



■地上が冠水すると一気に水が流れ込みます。



■水圧でドアは開きません。

土砂災害の注意事項

■土砂災害の多くは雨が原因で発生します。一般に1時間に30mm以上、または降り始めてから100mm以上になったら十分な注意が必要です。



■土石流はスピードが速いため、流れを背にして逃げたのでは追いつかれます。土砂の流れる方向に対して、直角に逃げるようにしましょう。



■緊急時には、生命を守る最低限の行動として、比較的高い鉄筋コンクリート造りの建物の2階以上で斜面と反対側の部屋への緊急避難を心がけてください。

地震発生時の注意事項

地震が発生した場合は、あわてず身の安全を確保し、揺れがおさまってから安全な場所に避難しましょう。

東南海・南海地震が発生した場合、徳島市では震度5強から6強の震度が予測され、地震の揺れは2分～5分続くと想定されています。

屋内

家の中

- ・テーブルの下にもぐり、頭部を守る。
(座布団やクッションなどを利用)
- ・ガラス片が危険なため素足で歩かない。



デパート・スーパー

- ・バッグなどで頭を保護。
- ・ショーウィンドウや売り場から離れ、壁際に。
- ・係員の指示に従う。
- ・あわてて屋外に出ない。



ビル・オフィス

- ・机や作業台の下にもぐる。
- ・ロッカーなどの大型備品の転倒、OA機器の落下に注意。



マンション・アパート

- ・ドアや窓を開けて、避難口を確保。
- ・エレベーターは絶対使用しない。避難は階段で。



やけどに注意

地震で大きく揺れているときに、使用中のコンロに近づくのは危険。鍋などの落下によりやけどをする恐れがあります。揺れがおさまってから火を消しましょう。

屋外

路上

- ・カバンなどで頭を保護し、空地や公園などに避難する。
- ・ガラスや看板などの落下物に注意。
- ・建物、ブロック塀、自動販売機などには近寄らない。



車を運転中

- ・ハンドルをしっかり握り徐々にスピードを落とす。
- ・道路の左側に車を寄せ、エンジンを停止させる。
- ・避難する時は、車のキーはつけたままに。
- ・車検証や貴重品は携帯する。



電車やバスなどの車内

- ・つり革、手すりに両手でしっかりつかまる。
- ・勝手に車外へ飛び出さず、係員の指示に従う。



津波から避難するために

東南海・南海地震による津波は、地震発生後約42分で到達し、最大約3.3mの津波となります。

(平成16年3月 徳島県津波浸水予測調査結果より)

強い地震や長い時間の揺れを感じたら
津波警報が発表されたら

ただちに海岸から離れ
急いで安全な場所に避難する

津波注意報が発表されたら

海岸にいる人は
ただちに海岸から離れる

- 津波警報が発表されたら、地震を感じなくても、ただちに海岸・河口から離れ、急いで安全な場所へ移動する。
- 正しい情報をラジオ・テレビなどを通じて入手する。
- 津波注意報でも、海水浴や磯釣りなどは危険なので行なわない。
- 津波は繰り返し襲ってくるので、警報・注意報が解除されるまで海岸に近づかない。

「遠くへ」よりも、「高くへ」

避難が遅れた時など津波による浸水の危険が差し迫った場合の避難は、「遠くへ」よりも「高くへ」が基本です。徳島市が指定した津波避難ビルや近くの高い建物に逃げ込みましょう。

日頃から家族や近所の皆さんと話し合っておくことが大切です。

避難生活の注意事項

① 避難所を利用する場合とは

- ・自宅が被害を受けて、生活ができなくなった
- ・自宅が土砂災害などで被害を受ける危険がある
- ・余震で自宅が倒壊の恐れがある
- ・居住地域が災害で孤立し、集団で避難をした



② 避難生活の大切な項目

- ・町内会や自主防災組織、隣近所など日頃からのつながりを大切にしましょう。
- ・集団生活となりますので、避難所のルールづくりや役割を決めましょう。
- ・よりよい生活環境となるようにみんなで協力し、助け合いましょう。
- ・高齢者、障害者、乳幼児、妊婦、病人、子供など援助を必要とする人には心づかいをしましょう。

